

開館10周年を記念して、10月28日から12月3日まで「こどもの城」で「ビクトル・ダミコ展」が開催されます。ビクトル・ダミコ(1904-1987)は、ニューヨーク近代美術館の初代教育部長(1937-1969)として、高校生のための「ヤング・ピープルス・ギャラリー」もアートが好き、子どもたちが「アート」と出合い、「アート」と遊ぶ「こどもアートカーニバル」など——子どもたち、大人、親子そして学校の先生のために、造形美術のさまざまな活動を行ってきました。この展覧会では、ダミコの生涯と業績を紹介すると同時に、子どものためのアート・プログラム「こどもアートカーニバル」を再現します。



「こどもアートカーニバル」(1957・スペイン・バルセロナ)

「こどもアートカーニバル」のための「美術教育玩具」の1つ「ダンシング・ルースター」



1950年代のダンシング・ルースター

開館10周年記念「親子体験ワークショップ」で行う、造形スタジオの「おやつとハット」子どもアートカーニバルハットをつくるには、ダミコのワークショップを再現するものです。



3階の造形スタジオには、トレーラーのイメージを生かした(ワークショップエリア)が設けられ、作品作りができるようになっています。また、造形スタジオのほかのスペースでは、ダミコが制作した視聴者参加型のテレビ番組「魔法の門をくぐって」で行われたワークショップを行います。

10
開館10周年

「こどもアートカーニバル」

(動機付けエリア)と(ワークショップエリア)の2つに分かれています。(動機付けエリア)には光や色、そして手触りなど美術の基礎となる感覚を刺激する「美術教育玩具」があります。「おもちゃ」をおして、不思議で幻想的な体験をした子どもたちは、自然に造形活動に取り組みようという気持ちを引き起こされます。そして、子どもたちは(ワークショップエリア)で自由にカラージュエリーやペインティングなどの造形美術の活動に取り組みます。



当時の資料をもとに「美術教育玩具」を復元

ダミコは「こどもアートカーニバル」がどこでもできるように、2台の大型トレーラー(約12m×3m)による「こどもアート・キャラバン」も計画しました。実現はしませんでした。が、「こどもの城」のダミコ展では、当時の資料をもとに「こどもアート・

キャラバン」のために考えられた、「美術教育玩具」を復元してキャラバンに展示します。「自然観察マシーン」「光色混合装置」「平面ネデザイン」など、子どもたちが自分で動かして遊ぶことによって、いろいろな感覚を呼び起こします。



「こどもアートキャラバン」の模型と想像図



特別記念講演会

主 題……ビクトル・ダミコ「人間性の美術」
講演者……アーサー・エフランド氏
場 所……【こどもの城】9階研修室
日 時……11月18日(土) 午後3時～5時
定 員……200人(無料)
後 援……国際交流基金・朝日新聞社+アメリカ大使館
※詳細は「こどもの城」造形事業部【03-3797-5661】へ。

ビクトル・ダミコ展

1904-1987

10月28日(土)～12月3日(日) 月曜休館
【こどもの城】ギャラリー+造形スタジオ

主催：こどもの城
後援：朝日新聞社+アメリカ大使館
協力：多摩美術大学・コロンビア大学チャールズカレッジ・
ビクトル・ダミコ・インスティテュート・オブ・アート



こどもホールディングス
1945年ニューヨーク近代美術館